

# 「小林市生涯活躍のまち」基本構想

小林市

平成 29 年 3 月

## 目次

### 1 はじめに

- (1) 「生涯活躍のまち(CCRC)」の意義と我が国における取組
- (2) 地方移住に関する意向

### 2 小林市の地域特性・地域資源

- (1) 位置・地勢・気候
- (2) 歴史・沿革
- (3) 雇用・就労
- (4) 医療・福祉
- (5) 水・食・住環境
- (6) スポーツ・アクティビティ

### 3 目的

- (1) てなんど小林総合戦略における位置付け
- (2) 「小林市生涯活躍のまち」を推進する目的

### 4 コンセプト

- (1) 基本コンセプト
- (2) 想定する対象者

### 5 構想の具体像

- (1) 入居者
- (2) 立地・居住環境
- (3) サービス提供
- (4) 事業運営

### 6 実現化に向けて

- (1) 地域再生計画の策定
- (2) 関係機関等との連携・協力
- (3) 事業主体の選定
- (4) 事業計画の作成

# 「小林市生涯活躍のまち」基本構想(案)

## 1 はじめに

### (1) 「生涯活躍のまち(CCRC)」の意義と我が国における取組

我が国における生涯活躍のまち(日本版 CCRC)構想は東京圏をはじめとする地域の中  
高年齢者が、希望に応じ地方やまちなかに移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健  
康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり  
を目指すものであり、構想の主な意義としては、「中高年齢者の希望の実現」、「地方への人  
の流れの推進」、「東京圏の高齢化問題への対応」の3点が挙げられます。

そのため、地方への新しいひとの流れをつくるという観点から、今後、地方公共団体が関  
係機関と連携・協力しながら「生涯活躍のまち」構想を本格的に検討・実施していくことが期  
待されています。

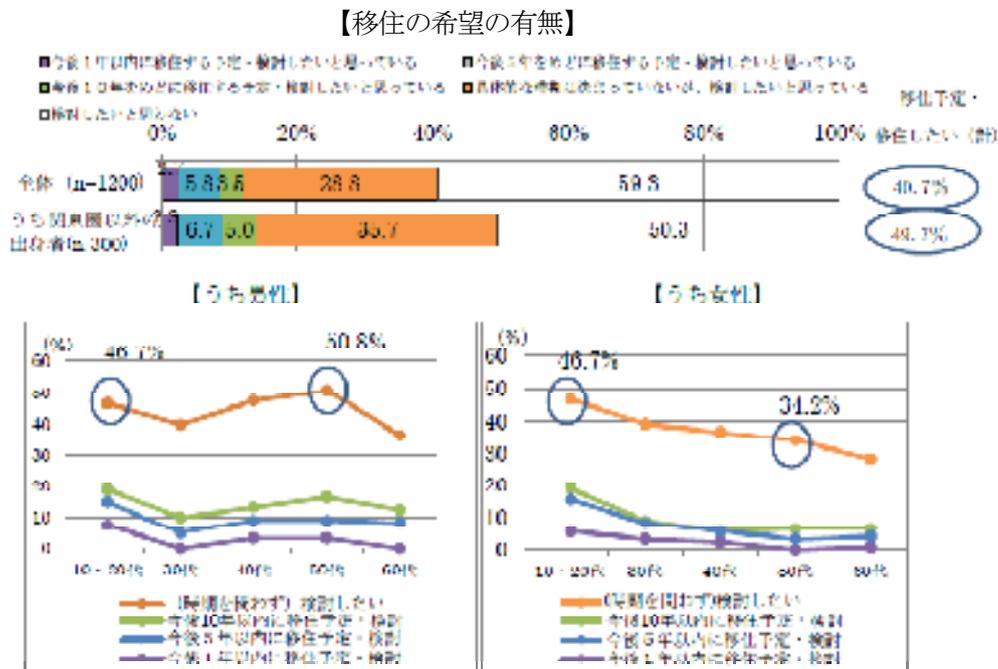
## (2) 地方移住に関する意向

内閣官房の「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」によれば、今後移住する予定又は移住を検討したいと回答した人(「今後1年」「今後5年をめぐり」「今後10年をめぐり」「具体的な時期は決まっていないが、検討したい」の合計)は、全体の約4割(40.7%)となっています。

うち関東圏(1都6県)以外の出身者では約5割(49.7%)となっており、関東圏出身者よりも高くなっています。

性別×年齢層別に見ると、男女とも10・20代で移住する予定又は検討したいと回答した人の割合が比較的高い(46.7%)状況がみられます。

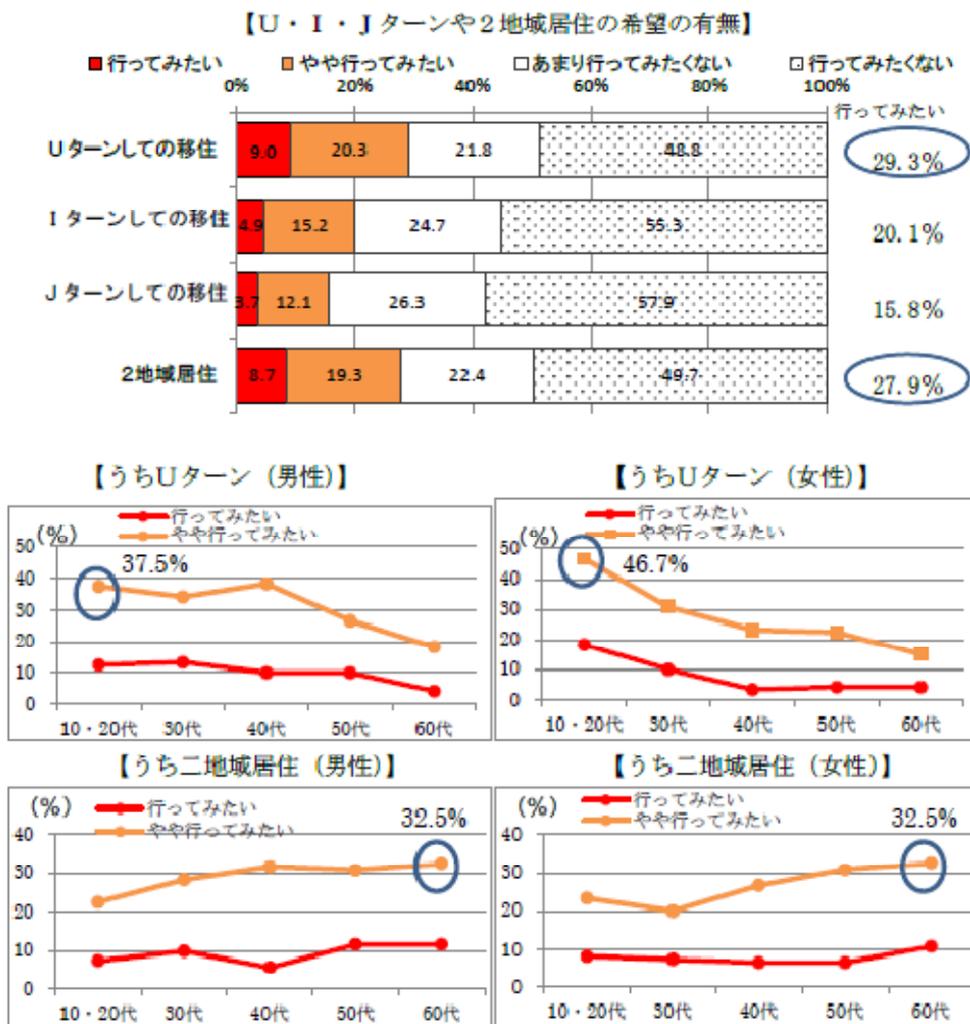
男性では50代も比較的高い(50.8%)が、女性では50代は比較的低い(31.2%)状況がみられます。



内閣官房「東京在住者の今後の移住に関する意向調査(2014)」

Uターンしての移住について、今後、行ってみたいと回答した人（「行ってみたい」と「やや行ってみたい」の合計）は、全体の約3割（29.3%）。特に10・20代男女はUターンしての移住を行ってみたいと思う人の割合が比較的高い状況がみられます（10・20代男性：37.5%、10・20代女性：46.7%）。

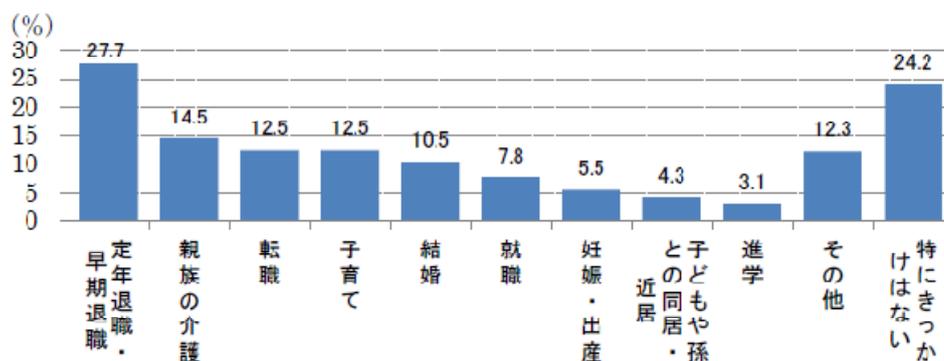
二地域居住について、今後行ってみたいと回答した人は、全体の約3割（27.9%）。特に60代男女は二地域居住をしてみたいと思う人の割合が比較的高い状況がみられます（60代男性：32.5%、60代女性：32.5%）。



内閣官房「東京在住者の今後の移住に関する意向調査(2014)」

移住をしたいと思ったきっかけについて、全体では定年退職・早期退職が最も高く、性別×年齢層別にみると、特に30代、40代と50代の男性で「早期退職」(29.2%、31.6%、49.2%)、60代男性は「定年退職」(45.5%)が高くなっています。

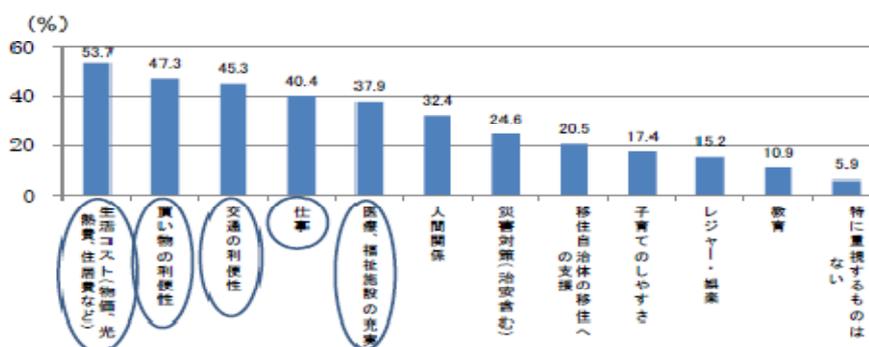
【移住をしたいと思ったきっかけ】



内閣官房「東京在住者の今後の移住に関する意向調査(2014)」

移住を考える上で重視する点としては、「生活コスト」「買い物や交通の利便性」「仕事」「医療・福祉施設の充実」を挙げる人が比較的多くみられます。また、「医療・福祉施設の充実」については、50代と60代において、男女ともに高くなっています。

【移住を考える上で重視する点(複数回答)】



年齢層	男性	女性
10・20代	① 仕事(58.9) ② 交通の利便性(51.8)	① 生活コスト(69.6) ② 買い物の利便性(66.1) ・ 子育てのしやすさ(48.2)
30代	① 仕事(58.3) ② 生活コスト(50.0) ・ 子育てのしやすさ(31.3)	① 仕事(51.1) ① 買い物の利便性(51.1) ・ 子育てのしやすさ(36.2)
40代	① 生活コスト(61.4) ② 買い物の利便性(56.1)	① 生活コスト(52.3) ② 人間関係(50.0)
50代	① 生活コスト(57.4) ② 医療・福祉施設の充実(41.0)	① 生活コスト(56.1) ① 交通の利便性(56.1) ① 買い物の利便性(56.1) ① 人間関係(56.1) ・ 医療・福祉施設の充実(46.3)
60代	① 生活コスト(54.5) ② 医療・福祉施設の充実(38.6)	① 医療・福祉施設の充実(70.6) ② 買い物の利便性(64.7)

内閣官房「東京在住者の今後の移住に関する意向調査(2014)」

本市が県外からの移住者に対して行った聞き取り調査においては、移住をして良かった点として、自然環境が豊かであることや、水や食べ物がおいしいこと、そして特に市民の人柄の良さなどが挙げられました。一方、不便に感じる点として、空き家の改修が大変、買い物が不便、文化施設が不足している、ごみの分別方法が複雑すぎるといった点が挙げられました。

聞き取りを行った移住者のほとんどは、これからも本市に住み続けたいという意向を示しています。

また、生涯活躍のまちの推進に関して必要と感じる取組については、地域住民との交流の場があること、移住者が持つ知識や経験を伝える場が必要との意見が多く見られました。

## 2 小林市の地域特性・地域資源

### (1) 位置・地勢・気候

本市は、宮崎県の南西部、宮崎市の西北西約60kmの場所に位置し、市域北部で熊本県と接し、市域南西部では鹿児島県と接しています。南西部は霧島連山の北東部にあたり、韓国岳(標高1,700m)、新燃岳(標高1,421m)、夷守岳(標高1,344m)、中岳(標高1,332m)、矢岳(標高1,132m)、高千穂峰(標高1,574m)及び火口湖大幡池を市域に含み、霧島連山の北麓には生駒高原(標高540m)があり、緑豊かな森林や高原が開けています。

中南部ではカルデラが陥没した小林盆地が形成されており、小林盆地の北部が市の中心市街地となっています。小林盆地の中を岩瀬川が東西に流れており、その流域には、優良農地が広がり、ジオサイト(地質遺産)や温泉、湖沼などの個性的な地域資源も多数有しています。

面積は563.09km<sup>2</sup>で、宮崎県の面積の7.3%を占めています。

気候は、夏は暑く、冬は冷え込む内陸型の温暖多雨地域に属しており、年平均気温は約16度、年間降水量の平均値(2000年～2010年)は2,500mmを超えます。また、昼夜の気温差や夏と冬の寒暖差が大きく、霧の発生が多い地域です。

また、山間部のため、地震の際の津波の心配がありません。

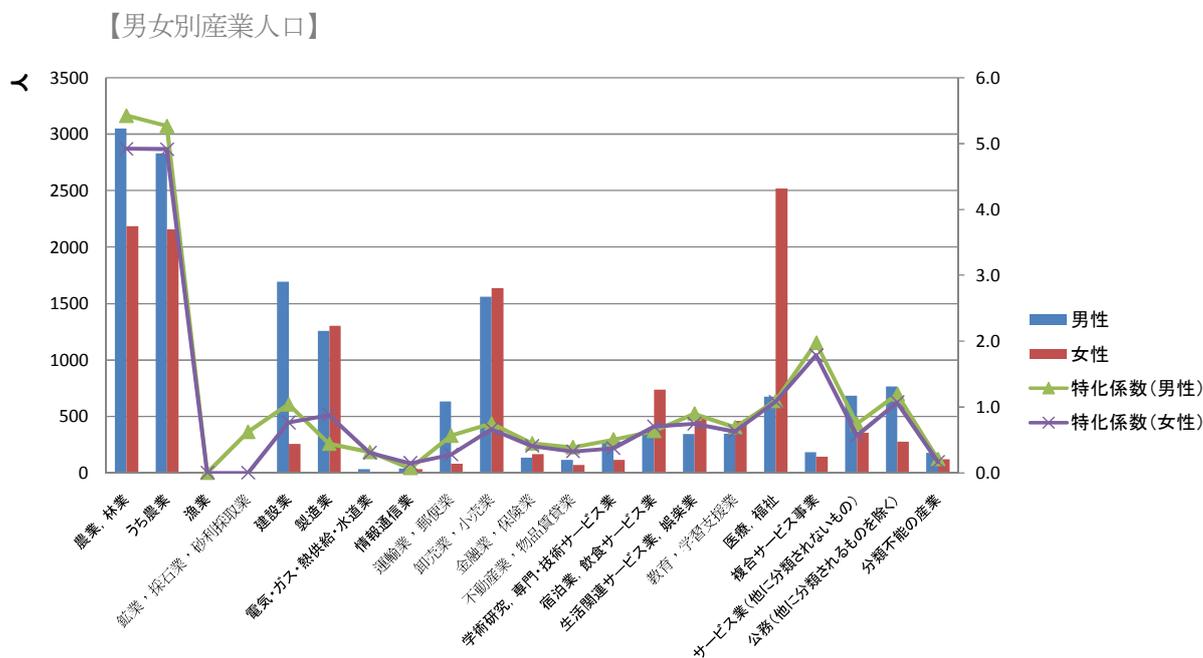
### (2) 歴史・沿革

本市は、古来から日向、肥後、薩摩を結ぶ交通の要所で、古代は夷守、中世は三ツ山または三之山、近世にほど近い天正のころに小林と呼ばれるようになりました。

明治時代までに自然発生的に生まれた村は、明治22年(1889年)に町村制が施行されて小林・須木・野尻の三村が誕生し、その後、市制施行・町制施行を経て、平成18年(2006年)に小林市と須木村が合併、平成22年(2010年)に小林市と野尻町が合併し、現在の小林市となりました。

### (3) 雇用・就労

本市の特化係数から、農林業、建設業(男性)、医療・福祉などの産業人口シェアが全国平均よりも高くなっています。



国勢調査(平成22年)

また、産業人口の絶対数では、農林業、建設業(男性)、製造業、卸・小売業、医療・福祉の人口が大きく、建設業(男性)や卸売業・小売業(女性)における20代の割合が比較的小さくなっています。農林業においては20代、30代の割合が特に低くなっています。産業面では、主要産業の農林業や建設業、雇用の絶対数が多い卸売業・小売業において若年層の比率が小さくなっています。

### (4) 医療・福祉

本市では、市民の健康増進を図るための計画「健康こぼやし21」に基づく生活習慣病の発症・重症化予防や食生活・運動など生活習慣の改善等による健康づくり、また、医療と介護の連携や生活支援・介護予防などが一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築等を推進しています。

市内には、12か所の病院、36か所の一般診療所、18か所の歯科診療所があり、病院間の連携や病診の連携などにより充実した地域医療体制が確保されているほか、小林准看護学校、小林看護医療専門学校では、地域医療を支える若者を育成しています。

## (5) 水・食・住環境

霧島連山に降り注いだ雨が約50年の歳月をかけて湧き出した水は、美のミネラルとして脚光を浴びるシリカなど多くのミネラル分を含んだ良質な中硬水として、飲用としてはもちろん、農業や養殖漁業にも利用され、多くの恵みを生み出しています。

和牛のオリンピックといわれる全国和牛能力共進会で日本一に輝いた「宮崎牛」をはじめ豚・鶏といった畜産、火山性の土壌を基盤とした多様で豊かな自然に育まれた、完熟マンゴー・メロン・梨・ブドウなどの果物、1年を通しての旬の野菜など、数多くの優れた食材があります。

また、穏やかで優しく親切な性格の人が多い市民性であり、豊かな自然と地域の中で子育てができる環境です。

## (6) スポーツ・アクティビティ

男子駅伝や男女バスケットボール、男子ハンドボール、男子新体操などの複数種目において、市内の高校が全国制覇の実績を持つほか、市民レベルでも総合型地域スポーツクラブでの活動など、スポーツが盛んな地域です。

また、小林総合運動公園や各地区体育館など、市内各地域に体育施設が整備されているほか、ゴルフ場、クロスカントリーコース、登山やトレッキングなどの自然を活用したアクティビティを行える環境も充実しています。

## 3 目的

### (1) てなんど小林総合戦略における位置付け

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2014(平成26)年で約47,000人だった本市の人口は、2060(平成72)年には約25,000人となります。また、年少人口や生産年齢人口が減少し、社会や地域経済に大きな影響が予想されます。

これらの影響を極力抑制し、急速な人口減少を緩和するため、「てなんど小林総合戦略」では、合計特殊出生率の現状維持を目指すとともに、若年層の純移動率を10%改善することで、2060(平成72)年に人口約30,000人を維持することを目標に設定しています。

この目標を達成するため、「小林に安定した雇用を創る」「小林に新しい人の流れを創る」「小林に住む若い世代の希望を叶える」「時代に合ったまちを創り、近隣地域と連携する」の4つを基本目標としており、地域の関係機関等との多様な連携により、域外からの人を呼び込む力の向上を図ることとしています。

「生涯活躍のまち」は、「新しい人の流れを創る」取組の一環として位置付けられ、生涯活躍のまち(CCRC)に係る移住者数を100世帯と設定し、取組を推進していきます。

## (2) 「小林市生涯活躍のまち」を推進する目的

多様な知識・技術・経験を持つ、健康でアクティブなシニア世代を受け入れることにより、人の流れが生まれ、地域経済の活性化や雇用の創出などが期待されます。また、地域に存在する医療・介護サービスの有効活用が図られるとともに、健康増進・介護予防などの取り組みが活性化することで、市全体の健康寿命の延伸などが期待されます。

## 4 コンセプト

### (1) 基本コンセプト

内閣府の「高齢者の日常生活に関する意識調査」によると、どのような時に生きがいを感じるかについては、「趣味やスポーツに熱中しているとき」が 47.3%と最も高くなっています。また、自主的活動で参加したいものについては「健康・スポーツ」が 44.9%と最も高くなっています。

一方で、健康や病気に対する不安の具体的な内容については、「体力の衰え」が 62.2%と最も高く、さらに、自主的活動へ参加しない理由では「健康・体力に自信がないから」が 44.1%と最も高い状況がみられます。食生活で気になる点については、「栄養のバランスがとれていない」が 19.7%と最も高くなっています。

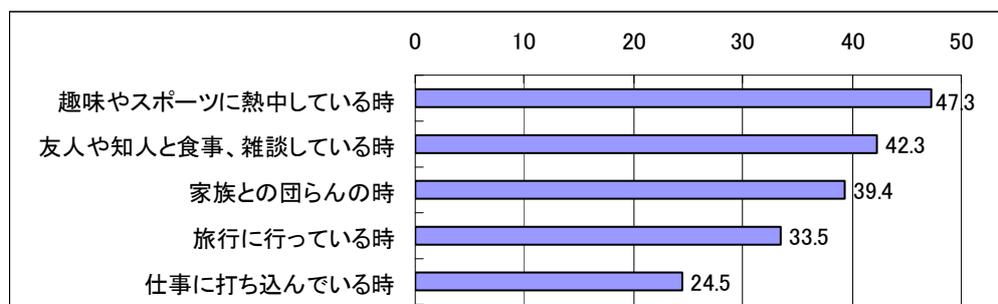
これらのことから、健康で体力を維持し、スポーツ等に取り組むことが、高齢者の生きがいにとって重要であることがわかります。

本市は、霧島山系でのトレッキングや登山などのスポーツ・アクティビティが可能な環境、多くの体育施設を有しており、高校スポーツの複数種目での全国優勝実績があるとともに、中高年齢者のスポーツも盛んです。

また、季節に応じた豊かな農産物を生み出す土地であることから、幅広い年代の移住者が高い関心を持っている食や農業に関しても、多くの魅力的な資源を有しています。

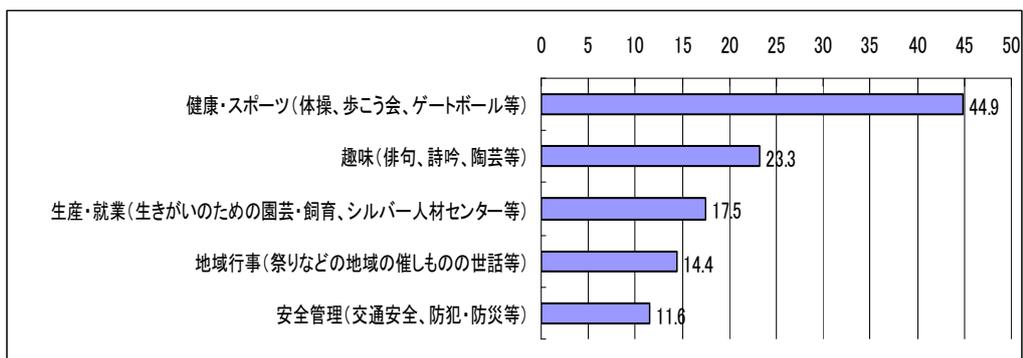
このため、本市では、「スポーツ・健康」、「食」、「農」等に着目した生涯活躍のまちづくりを推進し、入居者及び市民が健康でアクティブで充実した生活を送ることを目指します。

### 【どのような時に生きがいを感じるか(上位5項目)】



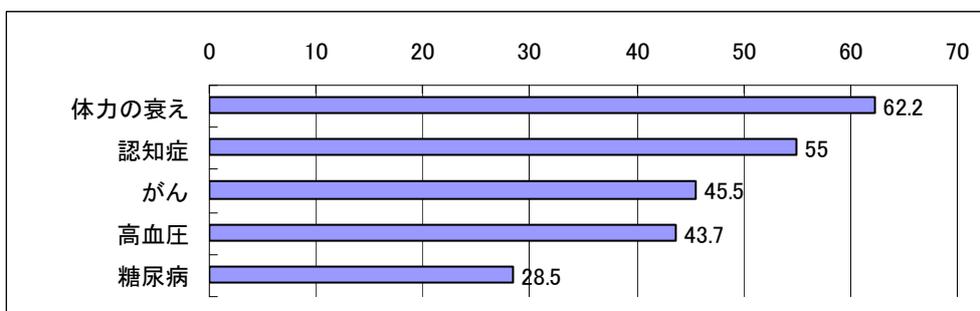
内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査(平成26年)」

【自主的活動で参加したいもの(上位5項目)】



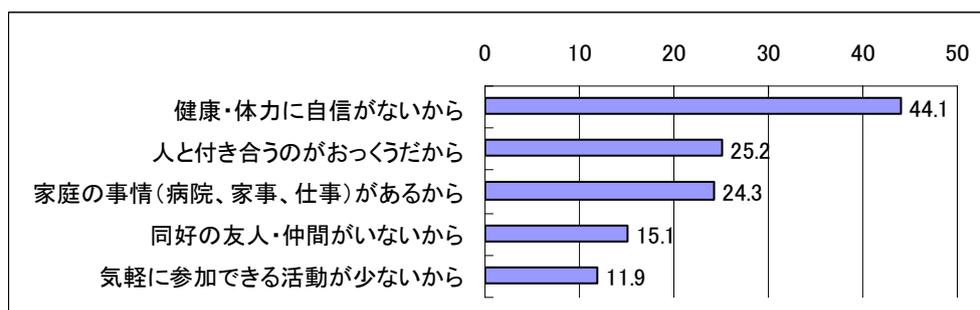
内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査(平成26年)」

【健康や病気に対する不安の具体的な内容(上位5項目)】



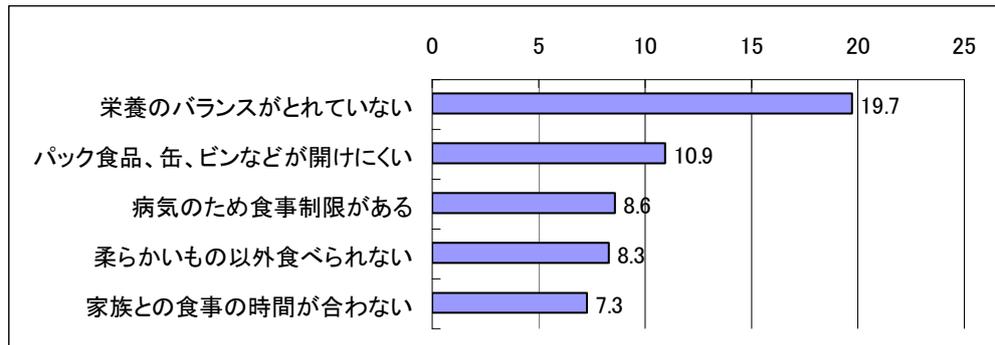
内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査(平成26年)」

【自主的活動へ参加していない理由(上位5項目)】



内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査(平成26年)」

### 【食生活について気になる点(上位5項目)】



内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査(平成26年)」

#### (2) 想定する対象者

「小林市生涯活躍のまち」においては、都市部に居住する方で、シニアアスリート、スポーツ愛好家など、スポーツに積極的に取り組んでいる方や今後取り組みたいと考えている方、ほかに、健康・食・農に対して、意識・関心の高い方等を対象者として想定します。

## 5 構想の具体像

### (1) 入居者

#### ①入居希望の意思確認

「小林市生涯活躍のまち」の基本理念を理解し、入居意思が明確な方とします。

また、事前相談やヒアリング、お試し居住によるマッチングを実施し、入居希望者の意思確認を行います。

#### ②入居者の健康状態

基本的に健康な段階で入居し、コミュニティ・地域に溶け込み、できるかぎり健康な状態で過ごしていただくことを目指します。

#### ③入居者の年齢

50代以上を中心として想定しますが、中高年齢の移住者の子ども世代も含め、若い世代への情報発信等により、本市の移住施策の一環として一体的に推進します。

#### ④住み替え形態

都市部からの広域移住型を基本としながら、近隣からの転居や、二地域居住も想定します。

## ⑤入居者の所得等

幅広い対象者とするため、厚生年金受給程度の一般的な所得の退職者が入居する費用モデルを基本としながら、スポーツに熱心に取り組むなどする富裕層の希望にも沿えるような内容を検討します。

## ⑥入居者の属性

「小林市生涯活躍のまち」においては、「スポーツ」「健康」に着目した取組を進めることとし、熱心にスポーツに取り組む方、アクティブな趣味を志向する方、健康・食に意識の高い方を入居者として想定し、その方々の夢が実現できる環境づくりを行っていきます。

## (2) 立地・居住環境

### ①地域社会(多世代)との交流・協働

地域交流拠点の整備(既存施設の利活用を含む)とコーディネーターの配置により、地域社会及び多世代との交流や協働を促進します。

### ②自立した生活ができる居住空間

民間により整備されるサービス付き高齢者向け住宅等を想定します。

### ③立地

まちなか型の場合は、中心市街地やその周辺部を想定します。

田園地域型の場合は、中心市街地以外も含んだ市内の区域を想定します。

### ④地域的広がり

一定の地域を集中的に整備するタイプのエリア型を基本として想定しますが、事業主体候補者から提案される構想の内容も踏まえつつ検討します。

### ⑤地域資源(既存施設等)の活用

市内の体育施設、公民館、教育施設等を有効に活用し、入居者及び地域住民の満足度向上につなげていきます。また、温泉や霧島連山に育まれた湧水など豊富で良質な水資源を生かし、入居者及び地域住民の癒しや疲労回復、健康増進につなげていきます。

### ⑥地域包括ケアとの連携

本市では、医療機関・介護施設間の情報共有の促進や、介護予防等の取組が進められているところであり、生涯活躍のまちづくりについても、これと連携することで、入居者

及び地域住民の安心を確保していきます。

### (3) サービス提供

#### ① 移住希望者に対する支援

現在、本市では、移住促進の取組として、情報発信、移住相談会、お試し居住などを進めているところですが、生涯活躍のまちの推進に関しても、事業主体と市が連携して取り組んでいきます。その際、移住資金等に関する相談等も含め、幅広い内容に柔軟かつ迅速に対応できる体制の構築を進めます。

さらに、スポーツが趣味のアクティブシニアをはじめとした方々を対象とするお試し居住など、地域の魅力を感じるとともに受入環境を事前に移住希望者が感じることができるような取組を検討していきます。

#### ② 「健康でアクティブな生活」を支援するプログラムの提供

入居者が健康でアクティブな生活を送ることができるよう、事業主体者や関係機関と連携して、「小林市生涯活躍のまち」ならではのプログラムを充実させ、入居者に提供できるよう、以下のような取組みを検討していきます。

大学等と連携して、ICT等を活用した入居者の体力や運動機能に即した運動プログラムの提供や、「スポーツ」や「健康」、「食」に関する正しい知識の習得を進めます。

小林市健康づくりポイント事業などの健康増進プログラムとの連携を図るとともに、医療機関等と連携した負傷時における機能回復や再発防止のトレーニングの実施、継続してスポーツに取り組める環境づくりや、温泉などの地域資源を生かした癒しの場の提供を行います。

スポーツ施設の利用、地域のスポーツチームへの参加や各種スポーツ大会への参加の促進、関連情報の提供を行います。

ハローワークやシルバー人材センター等と連携して、入居者のこれまでのキャリアを生かした就労や地域貢献への支援を行うとともに、生涯学習講座や市民大学、大人の社会塾として本市に開校する「宮崎こばやし熱中小学校」などを活用した生涯学習の場の提供を行います。

「食」や「農」に関心の高い入居者に向けた家庭菜園等での農業体験や農業指導等の場を提供したり、地域の行事などを通じた地域住民との交流の促進を図ります。

#### ③ 「継続的なケア」の提供

入居者が医療・介護等のケアが必要となった場合は、医療機関・介護サービス事業所等により適切なケアが行われる体制を確保します。

#### (4) 事業運営

民間事業者による運営とします。行政においても、移住相談・マッチング・お試し居住などにおいて、連携した取組を実施していきます。

### 6 実現化に向けて

#### (1) 地域再生計画の策定

地域再生法に基づく地域再生計画について、国から認定を受けられるよう手続きを進めます。

#### (2) 関係機関等との連携・協力

地域包括ケアシステムの構築や、各種支援プログラムの実施等に関し、医療機関、国、県、教育機関等との連携を図り、円滑な推進に努めます。

#### (3) 事業主体の選定

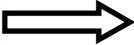
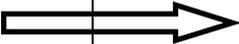
「小林市生涯活躍のまち」に係る基本構想及び地域再生計画の趣旨に合致する事業主体を、公募により選定します。

公募にあたっては、事業主体から提出された事業計画案の内容について審査します。

#### (4) 事業計画の作成

事業主体の決定後は、公募時に提出を受けた事業計画案の内容を基本として、事業計画の策定を行い、当該計画に基づく事業実施に努めます。

※今後のスケジュール(イメージ)

	H28	H29	H30	H31～
基本構想策定				
地域再生計画申請・認定				
事業主体公募・選定				
事業形成計画策定				
施設整備				
入居募集				
入居開始				